

令和 7 年度 施策評価表

第 6 章『自然と調和する住みよいまち』

まちづくりの目標	まちなかにみどりがあふれ、そこに人々が集い、思わず歩きたくなる、自然と調和した安全で住みよいまちをめざします。
分野別計画・指針	所沢市都市計画マスタープラン、所沢市立地適正化計画、所沢市ひと・まち・みどりの景観計画、所沢市中心市街地街並み整備計画、所沢市住生活基本計画、所沢市マンション管理適正化推進計画、所沢駅周辺まちづくり基本構想、所沢市営住宅等長寿命化計画、所沢市建築物耐震改修促進計画、所沢市橋梁長寿命化修繕計画、所沢市横断歩道橋長寿命化修繕計画、所沢市地域公共交通計画、所沢市水道ビジョン、所沢市水道事業経営計画、所沢市下水道事業経営計画、市街化調整区域下水道整備基本計画、所沢市生活排水処理基本計画、所沢市下水道ストックマネジメント計画

第1節	土地利用
関係所属	都市計画課、市街地整備課、企画総務課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「土地利用」 地域の特性を活かし自然と調和した街づくり(土地利用)が進められている	284	12.5%	382	16.9%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	土地利用に関する施策の満足度	%	-	65	12.5	×

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
6-1-1	計画的かつ合理的な土地利用の推進	土地利用転換の達成地区数	地区	0	2	3	○
6-1-2	所沢らしい景観まちづくりの推進	とことこ景観資源の指定件数	件	196	215	237	○
6-1-3	基地返還と跡地利用の促進	基地返還に関する要望実施件数	件	2	3	3	○

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り

○土地利用転換については、若松町地区(住居系)の土地区画整理事業が令和7年3月に完了し、事業中の北秋津・上安松地区(住居系)、下安松東地区(住居系)、三ヶ島工業団地周辺地区(産業系)については、円滑な事業推進のため、土地区画整理組合に対し、事業への支援・助言を行った。

○さらに、若松町地区では、きれいな街並みを維持・保全していくため、地元の声を把握し、宅地の緑地保全に向けた検討を進めるとともに、北秋津・上安松地区では、地元小学生との植樹イベントにより、まちなかのみどりを将来に渡って残す取り組みを行った。

○また、産業系土地利用を目指す関越自動車道所沢IC周辺地区では、土地区画整理事業の実施に向けて、地権者説明会を行い、地権者の8割を超える仮同意書を収集するとともに、NEXCO東日本など関係機関との協議を進めた。

○景観施策については、策定から10年を迎えた「ひと・まち・みどりの景観計画」の改定について、景観審議会において具体的な改定内容の議論を行い、令和7年度に予定する所沢市都市計画審議会への諮問の準備を整えた。また、とことこ景観資源の登録手続きを着実に進めた。

○防衛施設周辺整備全国協議会、埼玉県基地対策協議会を通じて米軍所沢通信基地の返還を要請した。

○米軍所沢通信基地内での火災の発生を受け、所沢市および所沢市基地対策協議会で再発防止及び早期の全面返還を要請した。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析

○土地利用転換は、市街化調整区域から市街化区域になった後に宅地や公共施設などの整備が行われており、この整備には時間を要する。このため個々の事業目標は達成されても、順次、住民や企業による経済活動などが始まって効果が見えてくるものであり、施策の満足度の評価として現れるには時間を要する。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 土地利用転換については、事業中の区画整理事業については、引き続き土地区画整理組合に対し、支援・助言を行うとともに、暫定逆線引き地区の解消に向けて、上安松・下安松西地区などの都市計画の変更を進める。
- また、関越自動車道所沢IC周辺地区では、土地区画整理組合設立に向けた準備会の結成について地権者説明会を行うなど、引き続き、支援・助言を行う。
- 景観計画については、令和5年度からの検討を踏まえ、大規模倉庫等一定規模以上の大きな工業・産業建築物に対する配慮事項や色彩基準の創設、既存の色彩基準の更新等について令和7年度中に部分改定を行う。また、とことこ景観資源は、引き続き活用の方角性について検討を進める。
- 米軍所沢通信基地の全面返還の早期実現を目指して、今後も引き続き要望活動を行う。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 引き続き、計画的かつ合理的な土地利用の推進など、市民の生活環境や経済活動などに資する個々の取り組みの推進に努め、満足度のアップを目指す。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ 15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナースhipで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R7.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 並木 茂幸 街づくり計画部次長 高野 淳 街づくり計画部土地利用推進担当参事 井口 知一
-----	---------	--------	--

第2節	市街地整備						
関係所属	市街地整備、所沢駅西口区画整理事務所、都市計画課、建築指導課						
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人		満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「市街地整備」 所沢駅周辺をはじめとしてにぎわい創出に向けた整備が進んでいる		947	41.8%	522	23.1%		
評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
	所沢駅の1日平均乗降客数	人	102,732	114,000	109,930	×	
事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
6-2-1	所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進	事業地区を含む周辺の居住人口（御幸町・東町・日吉町・東住吉）	人	6,594	7,800	8,270	○
6-2-2	安心・安全に暮らせるまちづくりの推進	土地区画整理事業による防災性能の向上を進める面積	ha	169.1	290	265.3	×
6-2-3	市街地整備の適正な誘導（良好な市街地整備の推進）	地区計画・建築協定等の策定地区数	地区	37	44	36	×
節の基本方針への取り組み状況							
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り							
○令和3年度に策定した所沢駅周辺グランドデザインの実現に向け、庁内関連部署との勉強会及び先進自治体の行政職員による「官民連携まちづくりの本質や取組姿勢について」、有識者による「エリアプラットフォーム構築に向けた取組のこれまでとこれからについて」の勉強会を開催した。また、西武鉄道等と連携した「TOKOROZAWA DESIGN WALK」を開催し、この期間中、野老澤町商店にこれまでの取組の展示や、秋田家住宅をルート上に設定した街歩きを実施した。							
○所沢駅西口の広域集客型商業施設「エミテラス所沢」の開業に併せて、所沢駅周辺の交通渋滞を低減させるため、所沢駅西口入口交差点及び元町交差点の改良工事を実施した。							
○所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めた。							
○所沢駅周辺の回遊性の向上を目指し、歩行者デッキの整備を行い、令和6年9月に供用開始した。							
○所沢駅東西市街地の一体化や、駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」について、令和6年9月に側道を暫定開通させた。また、西武鉄道株式会社により鉄道敷地内の協定工事が行われた。							
○土地利用転換については、若松町地区（住居系）の土地区画整理事業が令和7年3月に完了し、事業中の北秋津・上安松地区（住居系）、下安松東地区（住居系）、三ヶ島工業団地周辺地区（産業系）については、円滑な事業推進のため、土地区画整理組合に対し、事業への支援・助言を行った。							
○また、産業系土地利用を目指す関越自動車道所沢IC周辺地区では、土地区画整理事業の実施に向けて、地権者説明会を行い、地権者の8割を超える仮同意書を収集するとともに、NEXCO東日本など関係機関との協議を進めた。							
○地区計画については、住民で構成される協議会から提出された椿峰地区の住民素案を案として都市計画決定を行った。また、フラワーヒル地区は、令和7年度中の都市計画決定に向けた原案説明会並びに原案及び案の縦覧を行った。							
○建築協定（11地区）：建築協定については、新たな地区の相談等もなく、地区数の増減はなかった。令和7年度中に期間満了となる地区が4地区あることから、該当する地区の代表者に連絡し、継続、地区計画への移行等、地区の意向に合わせた手続の調整を行った。							
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析							
○所沢駅の1日平均乗降客数については、新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着き、令和6年9月に所沢駅西口の広域集客型商業施設「エミテラス所沢」が開業したこともあり、流行前の令和元年度の数値（102,368人）以上に回復したが、流行時の対策であったテレワークの導入など、ライフスタイルの変化の影響により未達成となった。							
○市街化区域への編入及び土地区画整理事業の実施を目指す新規地区（上安松・下安松西地区）については、緑地の区域決定や公共施設の設計などを進めたが、農林調整など関係機関との調整に時間を要しており、都市計画手続きに至っていないため。							
○地区計画・建築協定等の策定地区数（地区計画23地区・建築協定11地区、街づくり協定2地区）について：地区計画については、R6年度は1地区増、1地区減、建築協定の増減はなかった。なお、既存の地区計画を1地区廃止し、その地区を含め新たに地区計画を策定したことから、トータルとして地区数を増やすことができなかった。							

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 引き続き、公共空間の利活用に係る関係部署との組織横断的な取組や官民連携体制の構築に向けた取組を進めるとともに、地域主体のエリアプラットフォームの設立及び未来ビジョンの策定を目指す。
- 所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めて、所沢駅西口エミテラス所沢に集まる来街者の周辺地区への回遊を促進する。
- 所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」の早期開通を目指し整備を進める。
- 東町の再開発事業で生み出された東町歩道広場について、引き続き、中心市街地のにぎわいや魅力向上のため、社会実験やイベント等の会場として貸出しを予定していることから、適正に維持管理を実施する。
- 土地利用転換については、事業中の区画整理事業については、引き続き土地区画整理組合に対し、支援・助言を行うとともに、暫定逆線引き地区の解消に向けて、上安松・下安松西地区などの都市計画の変更を進める。
- また、関越自動車道所沢IC周辺地区では、土地区画整理組合設立に向けた準備会の結成について地権者説明会を行うなど、更なる土地区画整理事業の具体化を目指す。
- フラワーヒル地区地区計画の都市計画決定を行うとともに、今後は何らかの街づくりルールの検討について相談がある地区等に対し、地区計画等の制度の周知や出前講座等を実施し、市民の意識醸成を図る。
- 建築協定は、住民とおしの紳士協定であることから、住民の街づくりに対する意識の向上を図ることが重要である。そのために、窓口でのパンフレットの配架や、ホームページでの情報提供を積極的に行う。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 所沢駅の1日平均乗降客数については、東口の北秋津・上安松土地区画整理事業地内で事業により整備された住宅の入居が始まることによって乗降客数の上昇が見込まれることから、事業者と情報共有しながら必要な支援を行っていく。
- 所沢駅西口にエミテラス所沢が開業し、これを拠点として所沢駅周辺から旧町地区等への人の流れを生むため、事業者と地元住民、及び行政が連携したエリアプラットフォームが主体となり、パブリックスペースなどを活用した居心地の良い空間創出などを進める。
- 市街化区域への編入、土地区画整理事業の実施とあわせた防火・準防火地域の指定に向けて、引き続き、上安松・下安松西地区(約27.1ha)における関係機関との協議を整えとともに地元への説明を行う。
- 地区計画については市街化編入する地区を含め、引き続き都市計画決定の手続きを進める。また、街づくりルールの検討をしている地区に、出前講座等を実施し市民の意識醸成を図るとともに、街づくりアドバイザー派遣などの支援を行っていく。
- 令和7年度中に期間満了となる地区の4地区のうち、継続や地区計画への移行を検討している地区については、地域の協議会に対して手続の支援を行っていく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ 15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナースhipで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R7.7.31	記入者職氏名	街づくり計画部次長 高野 淳 街づくり計画部土地利用推進担当参事 井口 知一
-----	---------	--------	---

第3節	道路						
関係所属	建設総務課、道路建設課、道路維持課						
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人		満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「道路」 所沢市内の道路環境は整備されている		589	26.0%	808	35.7%		
評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
	充実した道路環境を要望する人の割合	%	56.2	現状値未滿	35.7	○	
事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
6-3-1	道路整備の推進	都市計画道路の整備状況	%	70.5	72	73.5	○
6-3-2	幹線道路の建設推進	幹線道路(バイパス)の整備状況	m	0	1,679	433	×
6-3-3	生活道路の整備推進	生活道路拡幅整備延長	m	—	4,000	4,246	○
6-3-4	歩行者・自転車環境の整備推進	自転車レーンの整備延長	m	770	12,294	6,806	×
6-3-5	道路環境の維持	橋りょう長寿命化修繕の箇所数	橋	2	1	1	○
節の基本方針への取り組み状況							
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○都市計画道路北野下富線1工区及び4工区の用地取得並びに工事を進め、完成した北野下富線1工区及び松葉道北岩岡線の一部を開通させた。</p> <p>○県施行による都市計画道路飯能所沢線の建設促進を図った。</p> <p>○道路の優先整備計画に基づき、市道3-3号線外3路線において延長802メートルの拡幅整備を実施した。この内、清柳橋改築事業における周辺道路整備として、市道1-900号線において、延長262メートルの拡幅及び歩道の整備が完了した。</p> <p>○所沢駅西口の商業施設開業に伴い、周辺の交通環境を整えるため、市道1-830号線（「所沢駅西口入口」交差点～「駒形」交差点）に自転車レーン延長1,281mの整備を行い、歩行者と自転車利用者の安全性の向上を図った。</p> <p>○橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、牛沼橋と松井橋の修繕を実施したほか、令和5年度の点検結果が健全度Ⅲ判定となっている天明橋と316号橋について、修繕詳細設計を実施するなど、橋りょうの維持管理に努めた。</p>							
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○県施行による都市計画道路飯能所沢線について、3工区の用地取得が進まなかったこと、また、接続先の東京都区間の事業化の見通しが立っていないため、4工区の事業化が難しい状況となり、整備の進捗が図れなかった。</p> <p>○要望の多かった通学路の安全対策を行うため、区画線の再標示等、安全施設設置工事に重点を置いたことから自転車レーンの整備が進まなかった。</p>							
今後の方向性							
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○都市計画道路北野下富線の立体交差区間を令和11年度末の供用に向けて整備を進める。また、所沢駅ふれあい通り線における市道1-525号線から「くすのき台交差点」の延長約260mの区間の用地取得を進める。</p> <p>○本市の外環状道路の一翼を担う都市計画道路飯能所沢線の全線供用に向けて建設促進を図る。</p> <p>○歩行者の安全性及び交通の利便性等の向上を図るため、歩道の整備及び狭あい道路の拡幅、交差点の改良等を推進していく。</p> <p>○法定定期点検の結果に基づき長寿命化修繕計画の見直しを行い、予防保全の観点から対象となる橋りょう修繕を計画的に実施する。</p>							
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○都市計画道路飯能所沢線について、関係機関との協議や地元説明会へ同席するなど、県と連携し、整備の進捗を図る。</p> <p>○自転車利用を推進するため、近隣市町及び埼玉県の自転車レーン設置状況を参考にするとともに、関係部署と協議を行いながら、歩行者・自転車環境の整備を推進する。</p>							

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.31	記入者職氏名	建設部次長 吉田 進一

第4節	交通政策						
関係所属	防犯交通安全課、都市計画課						
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度	
「交通政策」 鉄道・バス路線が充実していて出掛けやすい			766	33.8%	691	30.5%	
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	交通について不便と感じる人の割合		%	—	35	30.5	○
事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
6-4-1	交通政策の推進と公共交通の充実	市内の地域公共交通(バス)年間利用者数	千人	10,734	10,804	9,492	×
6-4-2	鉄道輸送の利便性向上	市内の鉄道駅の1日あたりの合計乗降客数	千人	413	429	402	×
6-4-3	駅の安全性・利便性の向上	西所沢駅西口改札口開設事業の進捗度	—	—	R5で開設	基本設計作成	×
節の基本方針への取り組み状況							
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○富岡地区のところワゴンについて、令和6年10月から2路線を3路線に改編するとともに、柳瀬地区のところワゴンについても令和7年1月から2路線を4路線に改編し、利便性の向上を図った。</p> <p>○三ヶ島地区のところワゴンについて、3年間の実証運行を終了し、令和6年4月から本格運行を開始した。</p> <p>○ところバスにバスロケーションシステムを導入し、遅延に関する問い合わせ対応など運行管理面の課題を解消するとともに、利用者がスムーズにストレスなく利用できる環境を整備した。</p> <p>○西所沢駅西口改札口開設事業については、改札口整備に向けた駅舎の基本設計を作成した。</p> <p>○西所沢駅周辺の安全対策のため、西所沢駅第4自転車駐車場の約半分を送迎車用転回広場とするが、その箇所を更地にする工事を実施した。また、転回広場から西所沢駅までの経路である県道所沢武蔵村山立川線の歩道拡幅用地を買収した。</p>							
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○新型コロナウイルス感染症やそれに伴うライフスタイルの変化の影響により地域公共交通(バス)と鉄道の利用者数が伸び悩み、目標値に達しなかったものと考えられる。</p> <p>○西所沢駅西口改札口開設事業については、令和5年度に基本協定を締結し、現在は鉄道事業者により駅舎の実施設計を作成中であるが、改札口の開設には至っていない。</p>							
今後の方向性							
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○ところワゴンについて、柳瀬地区・富岡地区における令和7年度中の本格運行に向け、利用促進のためのルート見直し等を進める。</p> <p>○ところバスについて、運行ルートの見直しによるコンパクト化や利用実態に応じた効率的なダイヤ編成を検討するほか、バスロケーションシステムの周知を進め、利用促進を図っていく。</p> <p>○西所沢駅西口改札口開設事業については、駅舎の実施設計及び駅前広場の設計を進める。</p> <p>○西所沢駅周辺の安全対策のため、送迎車用転回広場の整備工事を実施する。</p>							
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○引き続き、地域の方が利用しやすい地域公共交通ネットワークの充実・整備を進めるとともに、より多くの方に利用してもらえるよう周知を図っていく。</p> <p>○西所沢駅西口改札口開設事業については、駅舎の実施設計及び駅前広場の設計を確実に進め、駅周辺の安全対策も実施し、早期の改札口開設を目指す。</p>							

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
レ	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.31	記入者職氏名	市民部次長 近藤 真希 街づくり計画部次長 高野 淳

第5節	水道
関係所属	総務課、経営課、給水管理課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「水道」 安全な水を安定して供給している	1,336	59.0%	512	22.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	水道事業に関する施策の満足度	%	-	100	59.0	×

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
6-5-1	経営基盤の強化	資産の有効活用による収益額	万円	-	1,369	1,834	○
6-5-2	水資源の確保と有効利用	地下水の揚水量	万m ³ /年	412	350	394	○
6-5-3	安全な水の安定供給	配水池の耐震化率	%	71.7	100.0	95.1	×
6-5-4	更新需要と財政収支のバランスのとれた計画の実践	経常収支比率	%	110	110	103.8	×

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○資産の有効活用による収益額については、主に預金金利の上昇により定期預金利息収入が増加したことから、目標値を達成できた。
 ○地下水の揚水量については、総配水量の減少により、揚水量実績も減少したが、水源の安定確保を目的とした揚水量（目標値）は達成できた。
 ○西部浄水場を除く配水池は100%耐震化が完了し、汲み上げた井戸水を貯める着水井についても100%耐震化が完了した。
 ○経常収支比率については、前年度比2.8ポイント減の103.8%となったが、健全経営の水準とされる100%を引き続き上回っている。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○施策の満足度は未達成ではあるが、昨年度と比較し上昇（57.6%→59.0%）している。水の安定供給と災害に強いライフラインの構築を進めており、市民満足度の順位は第1位と高い評価である。
 ○残りの西部浄水場1号配水池の耐震化については、西部浄水場更新事業（令和18年度完了予定）において建て替えを行う。
 ○経常収支比率については、給水収益の減少に加え、主に人件費の上昇と物価高騰等に伴い委託料及び修繕費等の費用が増加したことから未達成となった。

今後の方向性

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**
 ○経営基盤の強化については、「所沢市水道ビジョン」及び令和8年度に改定を予定している「所沢市水道事業経営計画」に基づき、引き続き経営基盤の安定化に取り組む。
 ○配水池の耐震化が概ね完了し、各浄水場の着水井の耐震化も完了したことから、西部浄水場更新事業での配水池建設を計画的に進める。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**
 ○継続的な水の安定供給とともに、災害に強いライフラインの構築、水の安全性の維持、財政の安定を図り、市民から理解が得られるように広報活動等を通じてこれらの周知に努め、市民満足度のアップを目指す。
 ○経常収支比率については、所沢市上下水道事業運営審議会の意見を基に、適正な料金のあり方について検討を行う。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
レ	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.31	記入者職氏名	上下水道局次長 草薙 秀夫

第6節	下水道
関係所属	総務課、下水道維持課、下水道整備課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「下水道」 生活環境面で下水の処理に満足している	1,217	53.8%	422	18.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	下水道事業に関する施策の満足度	%	—	100	53.8	×

事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
6-6-1	自主財源の確保	有料広告用デザイン入りマンホール蓋の設置箇所数(累計)	箇所	10	70	56	×
6-6-2	生活環境の改善と公共用水域の水質保全	下水道普及率	%	93.7	94.8	95.2	○
6-6-3	災害に強い下水道整備の推進	道路雨水樹の浸透化数(累計)	箇所	—	840	1,200	○
6-6-4	下水道施設の計画的な老朽化対策	下水道管渠の更生・布設替工事延長(累計)	m	214	3,728	4,939	○

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
○マンホール蓋広告については、広告数の更なる出稿増加を目的にR5年度に要綱改正を実施して以降、R6年度は新たに3社4箇所の新規申込があった。本事業には他市からの問い合わせも多く、R6年度は広島市下水道局など全国他市から7件の視察を受け入れた。今後は事業が全国的に広まることで需要が高まり、広告の価値が上がることに期待したい。
○「第1次市街化調整区域下水道整備計画等」に基づき、第4期整備事業として污水管を4,281m布設した。
○市内各所で発生している内水被害を軽減させるため、既存の道路雨水樹210箇所を浸透化した。
○「所沢市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、管渠の更生・布設替工事を1,065m実施した。また、管内カメラ調査及び管口カメラ点検を26,810m実施した。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
○施策の満足度は未達成ではあるが、昨年度と比較し上昇(51.5%→53.8%)している。生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため、下水道整備を計画的に進めており、満足度に地域差はあるものの、昨年度に引き続き水道に次ぐ第2位と高い評価である。
○マンホール蓋広告については、新たに3社4箇所の新規出稿申込があったものの、近年の物価高騰等による社会情勢の変化もあり、想定していた新規出稿事業者の確保に至らず未達成となった。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
○マンホール蓋広告事業については、市外も含め多様な業種の広告が出稿されるよう、積極的な営業活動を行っていく。
○災害に強い下水道施設の耐震化に取り組むとともに、大雨による浸水被害の軽減対策を進める。
○「所沢市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、予防保全を中心とした維持管理を計画的に実施し、持続的な下水道機能の確保に務める。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
○下水道事業を安定して継続するとともに、下水道施設の耐震化や雨水対策など災害に強いライフラインの構築、施設の計画的な老朽化対策、財政の安定を図り、市民から理解が得られるように広報活動等を通じてこれらの周知に努め、市民満足度のアップを目指す。
○マンホール蓋広告については、目標値達成に向けて新たな広告主を獲得すべく、イベント等での周知など効果的な営業活動を進めていく。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
レ	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.31	記入者職氏名	上下水道局次長 草薨 秀夫 上下水道局下水道維持担当参 加藤 孝雄

第7節	住宅・住環境
関係所属	建築指導課、住宅政策課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「住宅・住環境」 安心・安全で住みよい住環境が形成されている	992	43.8%	509	22.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	住宅・住環境に関する施策の満足度	%	—	68.5	43.8	×

事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
6-7-1	安心・安全で良好な住宅や住環境整備の推進	長期優良住宅・低炭素建築物等計画の認定件数	件	280	250	630	○
6-7-2	適正な公営住宅の管理・運営	市営住宅の入居戸数	戸	773	787	716	×
6-7-3	住生活の安定と質の向上	マンション管理無料相談会における相談受付件数	件	19	42	30	×

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○長期優良住宅の件数589件、低炭素建築物等計画の件数41件の計630件について認定を行い、目標値を達成した。
 ○市内の住宅等の耐震化を図るため、一戸建て住宅の耐震診断10件、一戸建ての耐震改修2件に対して補助金を交付した。
 ○令和4年度、5年度に実施した「所沢市営住宅等マネジメント計画策定事業」で調査・検討した優先的に建替えを検討すべき3団地（西所沢北団地、松郷団地、愛宕山団地）に並木団地を加えた建替えの事業手法や集約化を見据えた計画について、庁内の公共施設マネジメント会議に図り、今後の方向性を検討した。その結果、同会議において新たに西所沢北団地の売却の提案がなされたため、改めて売却、建替えの事業手法等の検討を行った。
 ○家賃等滞納に関わる収納指導業務において、埼玉県住宅供給公社による納付督促に加え、収納未済額の減少を目的に、昨年度は市職員による納付を促す書類の送付や電話連絡、直接訪問を行い、支払いに繋がるなどの成果が得られた。
 ○「所沢市公共施設長寿命化計画」及び「所沢市営住宅等長寿命化計画」に基づき、宮本町団地自動昇降機改修工事を実施した。
 ○住宅の退去修繕（7室）を市が直接発注することで入居可能戸数の増加を図った。
 ○「所沢市マンション管理適正化推進条例」に基づき、管理組合に対する管理状況の届出の周知を行った。
 ○マンション管理適正化法に基づく「管理計画認定制度」による認定を24件行った。
 ○管理組合に対して、「マンション管理アドバイザー派遣制度」、「専門家団体による重点支援事業」を実施した。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○市営住宅の入居者については、長年に渡り住み続ける傾向にあることから、経年劣化などによる室内や設備等の傷み具合が激しい住戸が多く、退去修繕については、1戸当たりの修繕内容が多様化する傾向があり、修繕費用が嵩み時間も要することなどから、速やかに次期の募集戸数を増やすことが難しくなっている。しかしながら、市発注の退去修繕の成果もあり、多少ではあるが募集戸数は増加傾向である。
 ○住宅・住環境に関する施策の満足度の未達成については様々な要因が想定されるが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行以降、住民の生活様式の変化が影響したことも要因の一つと考えられる。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 長期優良住宅・低炭素建築物等計画の認定制度の概要等を、窓口でのパンフレットの配架や、ホームページへの掲載を行い、積極的に周知していく。
- 新たに提案された西所沢北団地の売却を踏まえ、改めて庁内調整を図りながら事業の方向性を確認し、「所沢市営住宅等マネジメント計画策定事業」を進めることとするが、「所沢市公共施設長寿命化計画」においては建替え対象の団地も「長寿命化」と位置づけられていることから、今後、建替事業についての合意形成が得られた場合には「所沢市公共施設長寿命化計画」の見直しをすべく調整を進めるものとする。
- 分譲マンションについて、条例に基づく各届出制度や認定制度について積極的な周知を行い、効果的かつ円滑な運用を図る。
- アドバイザー派遣や重点支援事業について広く周知を行い、より多くの管理組合に支援を行う。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 市営住宅の管理代行を委託している埼玉県住宅供給公社と連携して修繕の内容や費用等を見直し、退去後の修繕を速やかに行うことにより入居戸数を増やす。併せて、市発注による修繕工事を引き続き実施することで入居戸数の増加を図る。また、募集住戸の入居世帯人数についても今後検討する必要がある。
- マンション管理アドバイザー派遣制度の利用件数が増加しており積極的に活用されていることが、マンション管理無料相談会の目標件数未達成の要因と考えられる。管理組合に対しては、引き続きマンション管理無料相談会とマンション管理アドバイザー派遣制度を併せて周知を図り、活用を促す。
- 施策満足度の向上については、市民のニーズやニューノーマルの生活様式に対応した住環境の整備を推進するとともに、近年増加傾向にあるマンションの管理の適正化を図るため、引き続き管理組合への支援の充実を図る。

SDGsへの貢献

レ	1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R7.7.31	記入者職氏名	街づくり計画部次長 高野 淳
-----	---------	--------	----------------